

日本ほんミャンマー・カルチャーセンターカルチャーセンター 所長

ミャンマー出身のマヘーマーさん

日本で一番ミャンマーに近い場所

東京・高田馬場にはミャンマー料理店や雑貨店が集まるミャンマー街があります。その高田馬場で「日本ミャンマー・カルチャーセンター」を主宰する所長のマヘーマーさんにお話を聞かせていただきました。



流暢で美しい日本語を話されますが、交流センターで学ばれたのですか？

私が16歳頃でしたが、ミャンマーの寺院の僧侶から英会話を習っていました。その時、黒板に書かれていた日本語を見て興味を持ちました。日本人の観光客もたくさん来ていたので「日本語が話せたらカッコイイ」という憧れがありました。そこで半年くらい勉強しました。その後、日本に来てからは川崎市国際交流センターの他に日本語教室にも通い中央大学に入学しました。

来日した時の印象は？

近代化されていて清潔感溢れるきれいな国だと思いました。人々も映画の中に出てくるようなおしゃれな恰好をしていると感じました。信号待ちや電車に乗るときに割り込まない様子を見て礼儀正しいとも思いました。

このカルチャーセンターを作るきっかけは？

日本に来ているミャンマー人には日本語を話せる人があまりいないので、生活面でのサポートが必要だと思いました。役所や銀行の手続き、家を借りること、病院にかかること…これらをサポートする(ここに来れば大丈夫という)場所を作りたいと思ったのです。

教育面では、日本で生まれ育ったミャンマー人の子どもたちにアイデンティティーを持って生きていくことを教育する必要性があります。また親の都合で、突然日本に来た子どもたちの



マヘーマーさん(川崎市在住)



交流会の様子



学校生活へのサポート等をしています。大変なことは日本とミャンマーの考え方の違いを調整していくことです。私はどちらの立場も理解できますので難しいです。

このセンターのもうひとつの目的は、日本人に対してミャンマーの文化を紹介することです。竪琴、踊り、料理、語学教室を行っています。イベントも年7回行い準備が大変ですが、両国の人々が楽しめるような催しになっています。

昨年3月11日の震災の時は？

当日は皆が高田馬場のお店に集まって母国に電話で無事を伝えました。その後は原発の問題もあり帰国した人も多かったです。地震や災害への備えを記されたものをミャンマー語に訳して配りました。

すべてのトラブルに対応する「よろず屋相談所」と言われたこともあります。(笑)



▲学習の様子

今後の活動は？

体力も時間も限られています。今の時点でフル稼働していますので、頑張って現状維持していきたいです。

<http://jmcc.fc2web.com>

刻々とミャンマーでの政治情勢が変化している今、このセンターは益々重要な役割を持つことと思います。多忙なマヘーマーさん!これからも日本とミャンマーの架け橋として活躍されることを願っています。

(取材・文:編集ボランティア

相沢 明子)